

ベストの広場

2023年 4月号



目次

- 今月の特集①・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1 ～2
- The Best Topics・・・・・・・・・・・・・・ P 3 ～4
- 今月の特集②・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- 考えてみよう・・・・・・・・・・・・・・ P 6

今月の特集①

2023 都立一般入試

2月21日に都立高校の一般入試が行われました。

全日制の受検者数39,607人に対し合格者数は29,319人で、実質倍率は昨年並みの1.35倍でした。

今回の特集では、共通問題の出題内容を教科ごとにみていきたいと思います。

【国語】

全体の問題構成は例年通りで、記述型の設問は漢字と200字作文のみでした。

大問3の文学的文章は平易な文章で、登場人物の心情の読み取りも難解なものはありませんでした。

大問4の情報社会に関する論理的文章は、中学生にとっては読み取りにくい語句・表現が含まれた文章でしたが、昨年との比較では文章量もやや減少し易しめの内容でした。問題自体も難解なものはありませんでしたが、国語全体の中では、この大問4の出来で受験生間の点数差が生じるものと推測されます。

大問5は「枕草子」「源氏物語」に関する現古融合問題でした。文章量は少なくないものの、5つの設問のうち3問は知識に関する基礎的な問題でしたので、解答に多くの時間を要する内容ではありませんでした。

全体としては昨年度に比べ易化しており、80点前後の高い平均点となりそうです。

【数学】

大問1は、例年通りの出題パターンの基礎問題でした。ただ、計算や作図は、数学を苦手とする生徒さんにとってはミスが出やすい問題も出題されたため、全体の平均点を下げる要因となったかも知れません。

大問2の式の利用は、典型的なパターンの出題で標準レベルの内容でした。大問3の一次関数、大問4の平面図形の各最終問題は、問題を解く近道を見極めることがポイントとなりましたので、それができたかどうかで時間のかけ方に大きな差が生じたでしょう。大問5、空間図形の問1はポイントがわかれば解きやすいパターンの内容でしたが、それに気づくことができたかどうかは、中間層を中心に分かれたところでしょう。問2は、解答に一番多くの時間を要した受験生が多かったことが推測されますが、正四面体をパターンとして把握できていれば、比較的シンプルに解くことができる内容でした。平均点は昨年と同程度で、今年も60点台に届かなかったかも知れません。

【英語】

大問2の英作文は伝統的な日本の文化をテーマにしたもので、都立入試では、類似したテーマが何度も取り上げられていましたので、過去問演習に取り組んだ受験生にとっては書きやすい内容だったと思います。

大問4の長文読解は、文章自体は標準的で読みにくいものではありませんが、昨年度と比べると文章全体の語数が増えましたので、時間配分が上手くできたかどうか正答率に影響したかも知れません。全体としては昨年並みの難度でしたので、平均点は60点前半が目安になりそうです。

【社会】

昨年度の平均点が49.2点と5教科の中で最も低い点数でしたが、今年も昨年並みの難度でした。特に大問3の羽田空港に関する設問や大問4の明治の産業革命に関する問題、そして、大問5の公共料金や租税に関する問題などは細かい知識が求められる内容でした。明治の産業革命については、新1万円札の顔となる渋沢栄一が意識された出題だったでしょう。また、この明治の産業革命や、公共料金、租税については、2021年度の教科書改訂により、詳しく掲載されるようになった内容ですので「新教科書対応」ということを念頭に出題されたものと思います。特に公民については、今後もこのような細かい知識が出題される可能性が高いでしょう。

社会の問題の大きな特徴の一つが大問5の記述問題にみられるような読解力を必要とする内容です。この種の問題は知識だけでは対応が難しく、むしろ知識が足りなくても読解力と表現力があれば正解に辿りつけるような問題となっています。都立の国語の問題そのものは、ここ数年、5科の中でも難度の低い出題が続いていますが、他教科では、国語の問題以上に高い国語力を必要とする問題が多く出題されています。社会の平均点は、昨年同様50点前後の点数が見込まれます。

【理科】

大問1は、例年通り各分野の小問集合。計算問題や完答形式の問題もなく解きやすい内容でした。大問2も例年通りレポート形式の4分野からの出題。食塩水の濃度や天体の問題は、内容のつかみにくさが多少ありましたが、大問1と比較すると全体の正答率が低かったです。大問3の天気と大問4の消化と吸収、大問5のイオンは、いずれも基礎レベルの解きやすい問題中心でした。大問6では、やや複雑な計算を要する問題もありましたので、苦戦した受験生が最も多かったことが推測されますが、例年との比較では、標準的な難度といえます。理科の問題は全体的に基礎中心の内容でした。しかし、都立入試特有の問題文の長さ、文章の読みにくさがありましたので、それにどれだけ対応できたかによって点数差が生じたでしょう。平均点は、60点を超えるかどうかというところでしょう。

新学年を迎えるみなさんへ

みなさん、進級・入学おめでとうございます。いよいよ新学年での生活が始まります。新しい学年では、こんなことを頑張ろうという意気込みで溢れていることと思います。

今回は中学生を対象に、意識して取り組んで欲しいことをまとめました。さらに、学年ごとに1学期を過ごすうえでの注意点をまとめました。新学年での生活をより実りあるものにするためにぜひ参考にしてください。

【意識して取り組んでほしい3つのこと】

中学校生活を送るうえで、次の3つのことが基本となります。
習慣として身につけているか、改めて確認してみてください。



①どの授業も真面目に受ける

当たり前のことですが、どの授業も真面目に受けてください。中学生の皆さんは、高校受験（試験範囲は中学3年間分の内容）という試験が待ち受けています。まずは、日々の授業を真面目に受けて時間を大切に使うてください。受験で出題されない実技4教科も、成績では入試の可否に関わってくるので、手を抜かずに真剣に取り組んでください。

②見やすいノートをつくる

授業ノートは後で見直しができるように丁寧な字で書くことを心掛けてください。黒板に書かれている内容を写すのはもちろんのこと、先生が話していることでも大切だと思う部分はメモをとるようにしてください（ノートにそういう余白を作っておくと便利です）。また、先生によっては「ここはテストに出すよ」というアドバイスをしたりもするので、そういうときはメモだけでなく後で見直しができるようにカラーペン等で目立たせると良いでしょう。ふせん・シールなどを活用しても良いですね。

③毎日授業の復習をする

部活に習い事に塾にと、忙しい日々を過ごしていることと思います。ですが、授業で確認したことを定着させるために必ず主要5教科の授業の復習をしてください。毎日することが時間的に難しいのならば、教科ごとに復習する曜日を決めると良いです。

【1学期を過ごすうえで注意すべきこと】

◇中学1年生◇ 「すべてにかかわる学習の基礎を学ぶ」

中1ギャップという言葉があるくらい、中学生生活は小学生時代の環境と異なります。スタートが肝心です。ここで適当に過ごしてしまうとこの後の3年間・・・いえ、人生に大きく影響してしまうかも知れません。そのくらい大切な時期なのです。

勉強とは

『わからないことをわかるようにする』

『わかったものを反復練習で定着させる』

この2つです。とくにこの時期に習う内容は、中学に限らず今後の勉強の基礎となるものです。その内容理解に出遅れてしまうと、巻き返しも難しくなってきます。中1に限ったことではありませんが、本来この時期は『習ったらすぐに復習、そしてくり返し』が本当に重要になります。確かに、初めての部活に新しい学校行事にと新生活に戸惑ったり忙しくなったりする時期ですが、それは周りの中1生も同じです。忙しさを理由に勉強を疎かにしないようにしましょう。



◇中学2年生◇ 「中だるみに注意！」

“2”の付く学年や学期は大切な時期になることが多いです。2年生の1年間は中学校生活に慣れ高校入試まで間があるため「中だるみ」になりがちな学年です。実際、中学校から出される資料からも、毎年生活面の乱れや成績の低下が起こる事例が多く報告されています。したがって、中2の1学期の課題は「学習の目標」「生活の目安」をもって中学生生活を送ることです。「目標」を持ち、それを「自覚」することはとても意義があります。中2の1学期に高い志を持って勉強できる人は、その後必ず学力を伸ばし、成績も向上しています。中2の1学期は『目標』と『自覚』です。

◇中学3年生◇ 「志望校の絞り込みと定期テスト対策強化の時期」

チャレンジ校・目標校・滑り止め校など、志望校をある程度絞り込んでみましょう。夏休み以降、学校見学や説明会が各高校で予定されていますが、どの学校に行くか、この時期に目安を決めてください。また、偏差値の出る塾内テストや会場テストで、現在の自分の学力を正確に判定することも重要です。志望校合格のためには、これからどのように学習を進めていけばよいか、教室長と相談してその方針を固めましょう。同時にこの時期には、学校成績を上げるための定期テスト対策をしっかりとっておかないといけません。

「春休みを有効活用する」

中3になる前の春休みは、何となく過ごしてしまう生徒さんが意外と多いようです。中3の1学期は学校生活も多忙で、じっくりとした復習がしにくい時期です。ですからこの春休みは1・2年の復習と、特に入試教科の弱点単元を復習する絶好の機会です。目標を決めて学習することはもちろん、最低1つだけでも単元を決めて完璧にしておくことをおすすめします。



一つ一つの小さな積み重ねが、皆さんを成長させていきます。新学年という節目を機に、良い習慣が身に付くように努め、充実した学校生活が送れるようにしましょう。

※次号5月号では、高1から大学入試までの道筋について説明します。

今月の特集②

2023 共通テスト

大学入試センターは 2 月 6 日、2023 年度大学入学共通テスト実施結果の概要を公表しました。

2022 年度は、数学Ⅰ・A や日本史 B 等がセンター試験以降過去最低値を記録するなど、大幅な平均点の低下が目立ちましたが、2023 年度は複数科目で平均点の上昇がみられました。

主要科目で平均点がアップしたのは、数学Ⅱ・B+18.4 点(61.5 点)、数学Ⅰ・A+17.7 点(55.7 点)、日本史 B+6.9 点(59.8 点)、化学+6.4 点(54.0 点)などでした。数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・B はどちらも平均点が大幅に上昇し、特に数学Ⅱ・B はセンター試験まで遡った過去 20 年でもっとも高い平均点となっています。しかし、出題傾向自体には大きな変化はなく、計算自体の複雑さが緩和されたことが、点数アップの要因の一つとして考えられます。

一方、平均点がダウンしたのは、英語リーディング-8.0 点(53.8 点)、世界史 B-7.4 点(58.4 点)、政治・経済-5.8 点(51.0 点)などでした。平均点ダウンが目立った科目では、共通テストの特徴である複数の文章や多様な資料を示すことで、高い「思考力」や「判断力」が必要な出題が目立っています。

多量の文章や資料から解法の糸口を見出すには、しっかりとした読解力が求められます。また、実生活に則した実用的な内容の問題や対話形式の文章をもとにした問題など、様々な出題形式に対応するためには、思考力と判断力が必要です。

大学進学を予定している高校生は、このような共通テストの出題傾向を踏まえた実践的なトレーニングを積むことが不可欠となります。共通テストで求められる知識はあくまでも高校教科書の範囲内ですから、そのような基礎力を早期に固めた上で、実践的な演習の時間をどれだけ多く確保できるかが、カギとなるでしょう。

考えてみよう

- 1 形クイズです。あるものを順番に並べると、「○◎○○○○?□□□」となります。
?の中に入る記号は、次の内どれ?

- ①○
- ②◎
- ③△
- ④□

答え []

- 2 例にならって、次のへんやつくりの漢字を10こ考えて書きましょう。(例題は除く)

①にんべん (例: 体・低など)

[]

②くさかんむり (例: 草・花など)

[]

③しんによ (例: 近・遠など)

[]

※毎月、正解者の中から、2名の方に図書カードをプレゼントします。

締切は4月14日(金)です。

☆先月号の答え

1. 63

$1 * 4 = 1 + (4 \times 1) = 5$ 、 $3 * 6 = 3 + (6 \times 3) = 21$ 、 $6 * 4 = 6 + (4 \times 6) = 30$ 、
となっているので、 $9 * 6 = 9 + (6 \times 9) = 63$

2. 出口③

入り口→億→劇→器→導→選→敵→横→権→潮→熟→箱→編→調→論→
誕→賛→輪→蔵→養→線→出口③



ベスト

個別指導塾

立川教室	TEL 042 (527) 8662
清瀬教室	TEL 042 (493) 0440
小川教室	TEL 042 (345) 5745
府中本町教室	TEL 042 (366) 4456
東大和教室	TEL 042 (566) 4566
小平教室	TEL 042 (342) 8901
東村山教室	TEL 042 (390) 5257